

駒ヶ根市立赤穂中学校 開催要項

駒ヶ根市立赤穂中学校

- 一 期 日 令和5年10月31日（火）
二 会 場 駒ヶ根市立赤穂中学校（電話 0265-83-3161）
三 共同研究者 信州大学 准教授 高柳 充利 先生
四 日 程

1 受 付（生徒玄関） 12:40 ～ 13:00

2 開会式（会議室） 13:10 ～ 13:30

（1）開式の言葉	進行	会場校教頭	保科 功
（2）主催者挨拶	信濃教育会 事務局長	大日方 貞一	
（3）研究発表	赤穂中学校研究主任	林 克也	
（4）諸 連 絡	赤穂中学校教務主任	小松 淳	
（5）閉式の言葉			

3 授業公開 13:40 ～ 14:30

<授業学級>	<授業者>	<教科>	<会場>
（1） 1年6組	橋本 亜門 教諭	総合的な学習の時間	1年6組教室
（2） 2年2組	加納 茉弥 教諭	総合的な学習の時間	2年2組教室
（3） 2年4組	花見 一樹 教諭	数学	2年4組教室
（4）生徒会役員会	中島 弘樹 教諭	特別活動（生徒会）	視聴覚室

4 リフレクション 14:40 ～ 15:20

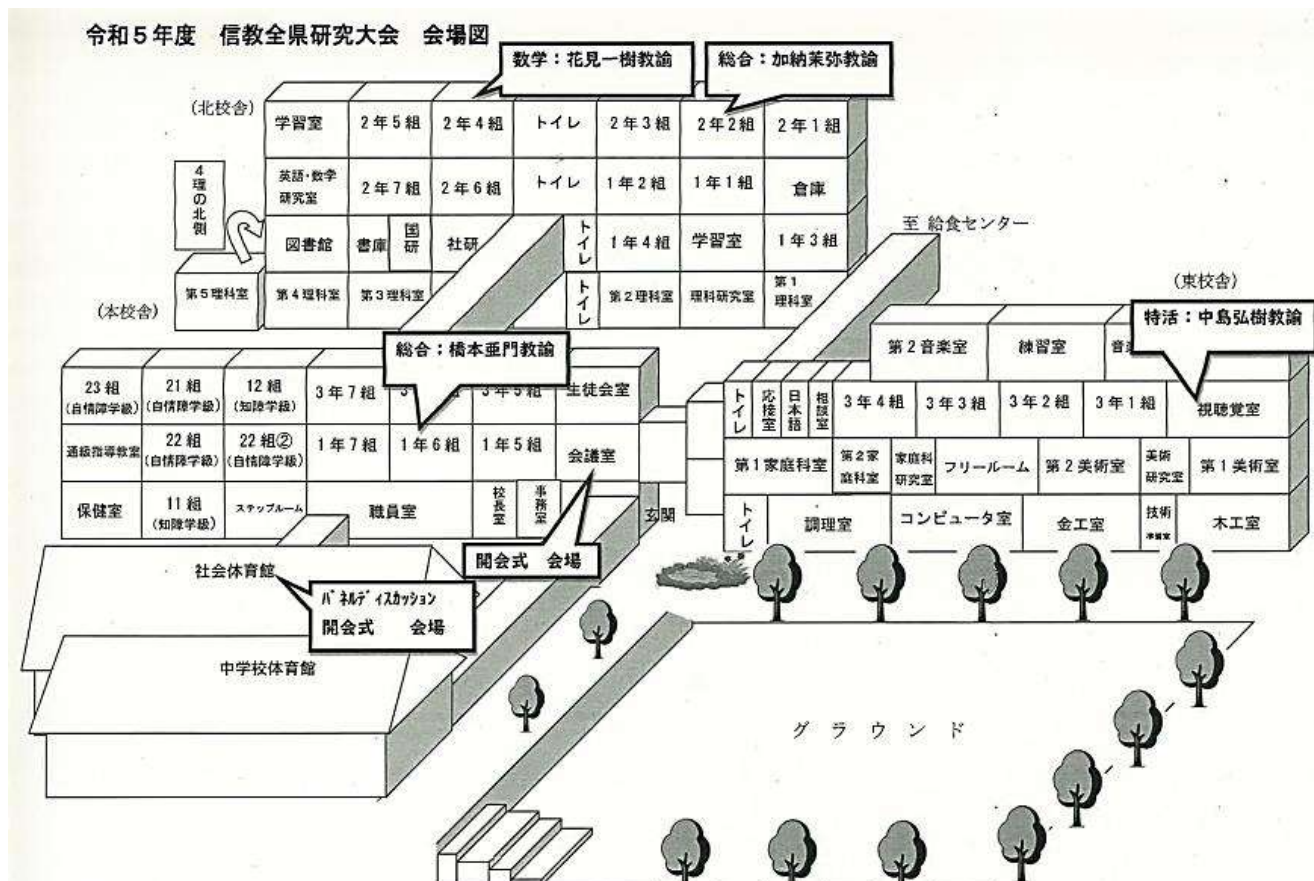
各会場2グループに分かれて行う	進行	赤穂中学校職員
（1）総合的な学習の時間	1年6組教室	2年2組教室
（2）数学	2年4組教室	
（3）特別活動（生徒会）	3年1組教室	

5 対談（社会体育館） 15:30 ～ 16:20

コーディネーター	信州大学 准教授	高柳 充利 先生
参加者	会場校校長	竹松 寿寛 校長
	生徒代表	生徒会長・生徒会副会長・白鈴祭実行委員長 運動会実行委員長・合唱祭実行委員長

(1) 開式の言葉	進行	会場校教頭	保科 功
(2) 主催者挨拶	信濃教育会 事務局長	大日方 貞一	
(3) 会場校挨拶	赤穂中学校長	竹松 寿寛	
(4) 諸 連 絡	赤穂中学校教務主任	小松 淳	
(5) 閉式の言葉			

五 会場図



六 その他

- 湯茶等、上履きは各自持参してください。お手数ですが、本要項、駒ヶ根市立赤穂中学校公開授業資料を各自で印刷し、ご持参ください。(単元デシネは当日配布いたします)
- 昼食は各自でお済ませの上、ご参加ください。
- 駐車場は、校舎周辺の駐車スペースをご利用ください。
- 写真、動画等の撮影が必要な場合は申し出をお願いします。なお、撮影の際は生徒の顔が写らないようご配慮ください。また、SNS への投稿や資料への活用をしないようお願いします。
- 当日、配布する座席表等生徒の個人情報に関わる資料はお帰りの際に回収させていただきます。
- お帰りの際に、右記 QR コードより反省を記入いただきますようご協力をお願いします。



反省入用 QR コード

駒ヶ根市立赤穂中学校 公開授業資料

○共同研究者 信州大学 准教授 高柳 充利 先生

○授業学級（教科）・授業者

1年6組（総合的な学習の時間）	・ 橋本 亜門 教諭
2年2組（総合的な学習の時間）	・ 加納 茉弥 教諭
2年4組（数学）	・ 花見 一樹 教諭
生徒会役員会（特別活動）	・ 中島 弘樹 教諭

I 全校研究テーマ

「問い応え続ける」 ～結び合いの中で生きる個～

II 本年度の研究の立場

昨年度、生徒会では、学校中に笑顔の花を咲かせたいと“咲顔（えがお）”をテーマに活動を行った。コロナ禍の中で、活動を制限されながらも学年・学級をまたいだ「縦割り清掃」を復活させたり、放送委員以外の生徒にも放送体験をしてもらう「放送チャレンジ」を企画したり、給食の課題を話し合う「給食懇談会」を企画するなど势力的に活動に取り組む生徒の姿が見られた。全校を巻き込み、互いが協力しながら活動をすればきっと皆が“咲顔”になるはずだと考え実施した活動は、全校生徒の心を動かしていった。また、「下校時間になると、先生たちから「時間を守って帰るように」と声をかけるけれど、それじゃあ自分たちも先生たちも“咲顔”になれない」と考えた生徒たちは、下校マンというキャラクターを作り、下校時間になると職員よりも先に下校マンが登場し、「笑顔で帰って、明日も笑顔で会いましょう！さようなら！」などと声をかけながら自分たちで自分たちの生活を創っていった。こうした生徒の姿を見た職員も「早く帰るように」という声かけではなく、生徒と並び歩きながら同じような声をかけるようになり、下校時間まで学校に“咲顔”が見られ、温かい雰囲気が広がった。

こうした活動の集大成として行われた白鈴祭、運動会、合唱祭では、行事があるから行事を創るのではなく、どのようにすれば行事を通して、皆を“咲顔”にできるのかを日常の活動と結びつけながら考え一つ一つを創っていく姿が見られた。特に白鈴祭では、地域も“咲顔”にするために、地域の方にも協力してもらいながら花火を打ち上げようという企画を考えた。花火打ち上げ資金を集めるために、自分たちでもアルミ缶を集めたが、それだけでは足りないと考えた生徒たちは地域にも協力を呼びかけ、近隣のスーパーに回収袋を設置させてもらうなど積極的に地域に出て行く姿を見せた。こうした生徒の思いに賛同した地域の方から大量のアルミ缶を寄付していただくこともあった。その成果として当日は何発ものきれいな花火を打ち上げ、駒ヶ根市全体を“咲顔”にすることにつながった。更に、翌日には、早朝から何人もの生徒が校舎周辺で花火のゴミ拾いを行った。最初から計画されていた活動ではなかったが、それまでの経緯を知っている生徒の思いが自主的な行動に移った瞬間であった。ゴミ拾いをしながら地域の方から「昨日の花火に元気をもらった」等と声をかけていただいた生徒もいた。

こうした活動を創る中には、どのようにするかを試行錯誤しながら活動をつくった生徒たちがいた。さらに、生徒と共に考え、生徒の伴走者として活動を支えた先生がいた。生徒と教師が一緒になって自分の良さを再発見したり、仲間の新しい姿を見つけたり、自分の思い通りにいかないことがあることを

知ったりした。それでも一人でできないことも皆の力が集まるとすごいことができることを経験し、自分なりの生きる力の体得につながった。この姿は探究的な学びを進めていたからと考える。

また、3年生のある学級では、人権学習をきっかけに、「世界へ向けて私たちにできることはないか」と残食ゼロ活動を行った。その活動が続けながら、「JICA からアドバイスをもらいたい」とか、「SDGs についてラマ色コラボの方に聞いてみたい」などと生徒から声が上がリ団体とつながりながら、「SDGs」をテーマに据えて、総合的な学習の時間（本校では“白鈴の時間”と呼んでいる。以下“白鈴の時間”）を実践していった。人の思いに触れたり、具体的な活動の仕方を学んだりしながら世界のために自分たちにできることはないかを考え、活動の方向を自分たちで決めていった。活動を進める中で、互いの思いのすれ違いを修正しながらよりよい活動にしようとする姿も見られた。最終的には、上伊那のイベントである「みなこいワールドフェスタ」で実践発表をしたり、販売活動で得た資金をカンボジアに図書館を建てるために寄付したりするなど活動をまとめた。

また、別の学級では、「赤中に残せるもの」をテーマに活動を行った。何か赤穂中に残せる物はないかと意見を出し合う中で、「形には残さないけれど姿や気持ちで残せることをしよう」と、校内清掃を行うことに決めた。日常生活を送る中で気になる場所を見つけながら生活し、白鈴の時間には自分で決めた場所を徹底的に磨き込む活動を繰り返した。与えられた清掃の時間とは違い、自分が決めた場所を清掃することで何年も手つかずであった場所に気づいたり、トイレを徹底的に磨き込んだり、清掃活動を行うことを通して同じような場所が気になっていた生徒と協働して活動を深めていく姿が見られたりした。どちらの学級にも学校に足が向きにくくなっている生徒、ほとんど登校できない生徒がいたが、この白鈴の時間には、必ず登校して時に友と関わり合いながらいきいきと活動に取り組む姿を見ることができた。よほど、その時間が楽しいものであったと思う。

こうした生徒の姿は、活動自体に魅力があることはもちろん、その活動を通して自分なりの「ねがい」や「問い」を明らかにし、自ら決めた活動に自ら取り組むことができたため心ゆくまで活動に没頭し、追究できたと捉えている。そこで、本校として探究的な学びのプロセスをすべての教育活動に広げていくことで、友と協働しながら心ゆくまで学び続ける生徒の育成につながると考えている。

さて、「授業場面ではどうか」と考えると、授業の中で授業の最初に一人一人の「ねがい」や「問い」を記してから学習カードに取り組む工夫をしている先生。ICT 機器を活用しながら生徒同士が課題を追究し、新たな課題を生み出すことで教師の語りを減らす工夫をしている先生など日々の授業を磨きながら生徒と向き合う教師の姿を見ることができる。生徒からは「よく考えて疲れるけれど、楽しい!」、「〇〇先生の授業は友だちと話し合える時間が多くて楽しいです。」と、こだわりをもって授業をしている先生方への感想を聞くことが多い。

こうした教師の姿に加え、本校では一昨年度から3つの「つ」【つかむ場面】、【つくる場面】、【つづる場面】を教育活動全般の共通の土台として授業実践をしている。先に紹介した生徒の具体の姿も、そこに携わる全職員が何のために何をするかを明確にし、それを達成するためにどのようにするか考えながらつくる。つくった結果、何がわかったかをつづることで、今後どのようにつながりそうか。ということの一つのサイクルに生徒とともにその時間を計画、実施したことが一因となった成果と捉えられる。

このように、教育活動の基盤になるものと教育活動を支える先生方がいる。しかし、教師間で授業実践を見合う機会を設けることが難しく、自身の授業に取り入れるチャンスを逃すことが多い現状もある。

そこで、3つの「つ」を土台としながら教師と教師をつなぎ、教科性の違い、キャリアの違いを活かしながら自身の授業に取り入れる機会を設けたいと考えた。そのために異教科、異キャリア、同テーマの小グループをつくり、日常的に授業を見合い、授業の感想を伝え合うことで、教師の感性や授業実践

力を磨くことの実践を始めている。こうすることで、いつでも気軽に授業を見合う風土をつくり、生徒にとっても教師にとっても探究的する学びがつくられていくものと考えている。

以上のことから、探究的な学びを全ての教育活動の基盤に据え、結び合いながら心ゆくまで追究する教育活動を創り上げていきたいと思い、本年度の研究を進めている。

Ⅲ 研究内容

【重点①】探究的な学びを基盤とした学習活動

友・大人・書物（情報）などと相談しながら、自分で考え、工夫し、自分で決める。自分が決めたことを自分の責任で行う。その中で、自分らしさを精一杯表現する。こうしたことを全教育活動を通して実践することで、これからの社会を生きる中でダイバシティを尊重しながらインクルーシブな社会を築いていける力の育成につながると考える。

【重点②】3つの「つ」が共通の基盤になるようにプロセスを大切にした教育活動

単元を通して、1時間を通して何のために何をするかがわかる【つかむ】。実際にやってみる【つくる】。パフォーマンスし、リフレクションする【つづる】ことを基盤にすることで、学びの主体者である生徒の主体的に学ぶ姿や対話的に学ぶ姿、深く学ぶ姿につながると考える。

【重点③】ふらっと参観とリフレクションの日常化

異教科、異キャリア、似た課題をもった職員同士で少人数の課題別研究グループをつくり、授業を見合い、授業について感想を伝え合う（リフレクション）ことを日常的に行う中で、自己課題が明確になり、互いの授業力の向上につながると考える。日常化するために特別な時間を設定することはしない。こうした風土をつくることは大変だが、授業研究に関わらず、課題別研究グループで動く場面を設定することで課題別研究グループで動くことが当たり前になるようにしたい。また、教師が自ら探究的に学ぶ姿が生徒に返るものと考えている。

Ⅳ 公開授業に関わる指導案について“単元デシネ”

本校では、学習指導案を「〇〇科単元デシネ」と呼んでいる。私たちは日々授業を行う中で、単元や本時を構想している。適切に構想しなければ生徒に力をつけることはできないし、そのことを喜びと教師が感じる授業にはならない。だから苦しみ、もがきながら毎回の授業を構想している。そこで、単元をベースにして必要不可欠なことを必要最小限書き表す。そうすることで生徒が力をつける授業、そのことに教師が喜びを感じる授業を目指す。それが「単元デシネ」の考え方である。

単元デシネには、『解説』を写す部分とそれを受けて自分の思いやねがいを記述する部分がある。こうすることで、根拠となること、つける力が明確になり、その根拠をもとにした自分の授業を創造することにつながる。また、単元デシネによって、『解説』をもとに、何を学ぶか」を捉え、「様々なアイディアをこらしながら、どのように学ぶか」を工夫し、単元の終わりには、「何が（どのように）わかったか、何が（どのように）できるようになったか」を、教師が明確に捉えられるようになるといった質的な高まりも期待している。

単元デシネは基本的に5つのパーツ【目標・評価規準】、【解説から】、【単元構想の立場】、【単元展開の構想表】、【本時の流れ】で構成する。これを受け、今回の単元デシネには以下のことを掲載する。

1 単元名	2 単元の目標（解説の抜粋）
3 単元の評価基準	4 指導要領解説から
5 この単元で大切にしたいこと	6 単元の展開
7 本時の流れ	

本資料では、授業の概要がつかめるように、「Ⅴ 本時の概要」において「7 本時の流れ」を掲載し、単元デザインは当日配布資料とする。

Ⅴ 本時の概要

1 1年6組 「総合的な学習の時間」（授業者：橋本 亜門 教諭）

(1) 単元名「牛乳パンプロジェクト」

(2) 本時の主眼

駒ヶ根市の牛乳パンのルーツやブームとなった経過等について自分たちで調べたり、駒ヶ根市の方との学ぶ会で学習をしたりした生徒たちが、自分たちで作る新しい味の牛乳パンについて考える場面で、駒ヶ根市4店舗の牛乳パンを食べ比べたり、地元の食材について調べ学習をしたりする活動を通して、試作・研究活動に向けて見通しをもつことができる。

(3) 本時の位置（全15時間中 第3時）

(4) 本時の流れ

【つかむ】

学習問題：牛乳パン試作のための今後の取り組みの見通しをもとう。

○牛乳パンのルーツやブームの経過などを知った上で、改めて自分たちで新しい味を作るならどんな味を作りたいか考える。

学習課題：4店舗の牛乳パンを食べ比べたり、地元食材について調べたりすることで、提案するパンのイメージをもとう。

【つくる】

○4つの店舗の牛乳パンを食べ、自分がどの店舗のパンで追究していきたいか考える。

○店舗ごとにグループを作り、そのパンの良さや合いそうな味について話し合う。※1

○合いそうな味について、地元の食材と合致しているか調べ学習をする。※2

※1・2の繰り返し

【つづる】

○次時の試作・研究に向けて、準備するものややることをリストアップし、まとめる。

→ 発表・共有

○全体で共有したことをもとに、学習カードに他のグループの学びについて気づいたことを記入する。

2 2年2組 「総合的な学習の時間」（授業者：加納 茉弥 教諭）

(1) 単元名「私たちにできる地域貢献」

(2) 本時の主眼

駒ヶ根市に住みやすく魅力あふれる町にしたいと願う生徒たちが貢献活動や企画を考える場面で、同じ志を持つ地域の方の話を聞いたり調べたりする活動を通して、具体的な構想を立てな

がら見通しをもつことができる。

(3) 本時の位置 (全 10 時間中 第 3 時)

(4) 本時の流れ

【つかむ】

学習問題：地域の活性化につながる企画をグループごとに立案しよう。

○駒ヶ根を活性化させようと尽力している地域の方の話を聞いた上で、今後自分たちにできることは何かを考える。

学習課題：実際の自分の活動やまちづくりに携わる人々の思いや願いを踏まえ、駒ヶ根の活性化につながる企画立案のための見通しをもとう。

【つくる】

○3つのグループごとに、地域の資源を活用しながら実行できそうな企画を考える。

○考えた企画を実行するための過程や必要な情報・費用・期間等について話し合う。

【つづる】

○本時で話し合ったことをまとめ、企画の実行のために準備するものやことをまとめ、全体に共有する。

○全体で共有したことをもとに、学習カードに授業前と授業後の自分の気持ちの変化や今後のねがいについて記入する。

3 2年4組 「数学」 (授業者：花見 一樹 教諭)

(1) 単元名「データの活用」

(2) 本時の主眼

最高気温だけでは快適な気温の決定ができないと疑問を持った生徒たちが、最低気温や平均気温のデータと共に、快適な気候の月を考える場面で、コンピュータを用いて実験結果をまとめたり、代表値や四分位数、四分位範囲などを用いてデータの特徴を比較したりすることを通して、根拠を明確にして、快適な気温で旅行に行ける月を決めることができる。

(3) 本時の位置 (全 5 時間中 第 5 時)

(4) 本時の流れ

【つかむ】

学習問題：修学旅行に行くのに快適な気温(20℃～25℃)といえるのは何月だろう？

○月ごとのデータのどのような点に着目したら比較できそうか問うことで、着眼点をもてるようにする。

○数値の意味やヒストグラムの見方を確認することで、データの意味理解ができるようにする。

○グラフをつくって調べるような発言を受けて、集計データ分析ソフト(スグラパ)を活用することを確認する。

学習課題：データを集計して、代表値や四分位数、箱ひげ図の特徴に着目して、20℃～25℃である月を調べよう。

【つくる】

○グループごとに分かれて、データの分析を行う。

○代表値やヒストグラムだけで追究しているグループには、箱ひげ図でも追究するように促し、根拠をもって判断できるようにする。

○それぞれのグループの追究結果を発表し合い、どのような根拠でその月を選んだか共有する。

【つづる】

○全体で共有したことをもとに、箱ひげ図等を利用してデータを分析するときに大切なことや身の回りの他のどのような場面に活用できそうかを学習カードに記述する。

○つづりをもとに、簡単なレポートを自主課題として作成する。

4 生徒会役員会 「特別活動」 (授業者：中島 弘樹 教諭)

(1) 単元名「あすなろ生徒会 最終章 ～赤中魂を繋ぐために～」

(2) 本時の主眼

白鈴祭・運動会、合唱祭の三大大行事を終え、生徒会引き継ぎの準備を控える子どもたちが、生徒会振り返りムービーを観て年間の活動を想起したり、成果と課題をFAGsと照らし合わせて分析し、点数化したりすることを通して、来年度のより良い生徒会運営に繋がる委員会年間活動の改善案を立案し、「引き継ぎ資料」としてまとめることができる。

(3) 本時の位置 (全8パート中 第3パート)

「年間活動の成果と課題まとめ及び年間活動分析」

前パート：各委員会で白鈴祭や年間活動の成果と課題を吸い上げる。

後パート：生徒会引き継ぎ資料作成及び生徒総会発表原稿づくり

(4) 本時の流れ

【つかむ】

本日のミッション：あすなろ生徒会は赤中FAGs達成に迫ることができたか!?

○「あすなろ生徒会これまでの振り返りムービー」を鑑賞し、あすなろ生徒会の年間活動を想起する。

○生徒総会に向けて、年間活動の成果と課題を、FAGsの観点から振り返るように促す。

ミッション達成のために：成果と課題をFAGsと照らし合わせて分析して点数化し、改善案を考えよう！

【つくる】

○三役で年間活動の成果と課題を挙げる。

○他の委員会三役からも成果と課題を挙げてもらう。(ワールドカフェ方式)

○委員会三役で再度成果と課題をFAGsに照らして整理し、まとめる。(Form、学習カード①)

○採点結果から、どうすれば100点に近づくことができるかを整理する。

【つづる】

○生徒会スローガン達成に近づくことができたことを確認し、「あすなろ魂の継承」に、生徒会役員として活動した1年間の感想(得たもの、後輩への熱いメッセージ)をつづる。

(学習カード②)